

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- 地球の木は「認定NPO法人」になりました ……1
- マジカルバナナv3 ……2
- 地球の木出前講座は未来への種まき ……3
- Laos 米不足をいかに解消させるか ……4
- Nepal しあわせ村民キャンペーン ……4
- Cambodia 織る楽しさを大切に ……5
- チャパティ・カレーで参加 ……6
- すてきな仲間 ……6
- ちょっと言わせて!「市民運動とは?」 ……7
- 読書の秋に… ……7
- 活動日誌 ……7
- INFORMATION ……8



地球の木は「認定NPO法人」になりました

地球の木は、国税庁より

2010年7月16日から2015年7月15日の期間、「認定NPO法人」として認定されました。

「認定NPO法人」とは

「NPO法人」の中で、広く市民から支持されていること、運営組織及び事業活動が適正であること、情報公開を適切におこなっていること、並びに法令違反、不正の行為、公益に反する事実などが無いことなどが審査の条件で、国税庁長官の認定を受けた法人のことをいいます。

日本全国に4万以上あるNPO法人の中でも「認定NPO法人」はまだ173団体（7月16日現在）だけしかなく、神奈川県では12番目の認定となりました。これに伴い、皆さまからのご寄付が、税制上の優遇措置を受けることができるようになります。

どのような優遇措置なのか

個人の方においては、確定申告時などの所得税の計算において寄付金控除の対象になります。また法人では、法人税の計算において、一般寄付金の損金算入限度額に加え、別枠の損金算入限度で処理できることとなります。さらに、相続または遺贈により財産を取得した方が、相続財産をご寄付なさる場合には、ご寄付なさる財産の価格は、相続税の課税対象から除かれます。

多くの人たちに支えられていること

この「認定NPO法人」では「多くの人たちに支えられていること」が重要な要件のひとつです。1991年「ランチャー食分の寄付」をかけ声に、多くの人々が集まり「市民による国際協力団体をつくろう」として生まれた地球の木は、まさにその「多くの人たちに支えられている」団体であり、その設立の主旨・経緯が今回の認定を受けるための大きな力となったのです。

地球の木がより活性化するために

2011年、地球の木は20周年を迎えます。今後、より大きくなる社会的責任を果たしていくためにも、活動をさらに活性化させ、地球の木を支えてくださる方々の輪を広げていきたいと思っています。今回の認定がその一助になることを期待しています。皆さま、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局長 筒井由紀子)

なお詳細は同封のちらしをお読みください。



地球の木オリジナル開発教育教材 マジカルバナナ v3

フルモデルチェンジして 再登場!



「マジカルバナナ」って何?

1980年代、砂糖の国際価格の大暴落によって、砂糖キビ産業に依存していたネグロス島(フィリピン)は大規模な飢餓に陥りました。その当初、緊急救援に入っていた「日本ネグロスキャンペーン委員会(JCNC)・・・(現・あぶらAPLA)」は、やがてネグロスの農民たちが自立した生活を送れるような仕組みを作る活動へとシフトしていきます。そこで考え出されたのが、自立のための活動資金を民衆交易(※1)で得る方法でした。そのころ、多国籍企業が流通を支配するバナナの残留農薬問題から、日本の消費者のあいだで無農薬バナナへの関心が高まっていました。そこからネグロスの山に自生するバランゴンバナナを農民自らが輸出し、それを「生活クラブ生協」をはじめとした日本の生協が共同購入するという道が生まれたのです。

地球の木はJCNCの活動を通じてネグロスの人びとを支援していたこともあり、生活クラブが扱うバランゴンバナナについての理解を得るために、写真やパネルを使って啓発活動をするようになりました。ネグロスの飢餓の問題や、大規模農園で生産されているバナナの諸問題が、日本で暮らす私たちの生活と密接にかかわっているということ、自分たちの問題として考えるためにはどうしたらいいだろうか? そんな中で「開発教育(※2)」と出会いました。

1997年「開発教育協議会・・・(現・開発教育協会(DEAR))」の教材開発セミナーに地球の木が素材を提供したことから、教材づくりのためにたくさんの人々が集まり、試行錯誤を繰り返しながら、1999年に教材化を果たしたのでした。名前は当時の人気TV番組にあやかって「マジカルバナナ」。それ以降、NGOが作った初めての開発教育教材として、一定の評価を得てきました。

「マジカルバナナ」改訂作業

2002年度、「総合的な学習の時間」が小中学校で導入されると、地球の木にも講師派遣の依頼や、「マジカルバナナ」の問い合わせが相次ぐようになりました。実際に学校現場や地域でワークショップをおこなううち、改善すべき点や改訂が必要な点も出てきます。そのため、よりわかりやすく、より楽しく学べるよう、「NEWマジカルバナナ」を2003年に刊行しました。そして、初版から10年を経過した昨年、2度目の改訂をすべく、マジカルバナナ改訂チームを立ち上げ、検討に入りました。

当初は、古くなった情報の入れ替えや、一部見直し程度を考えていたのですが、いろいろ調べ直したり、勉強し直

すと、根本的に変えた方がいい点も現れてきました。改訂過程で生まれた試作版を、実際にワークショップで試す機会に恵まれたのも幸いでした。そのため、つぎつぎに新しいアイデアが生まれ、結果的にフルモデルチェンジというくらいの大きな改訂となりました。このたび、8月7日におこなわれた開発教育全国研究集会・自主ラウンドで、満を持してのリリースとなったのです。

どこが新しい? 「マジカルバナナv3」

マジカルバナナは5つのワークからできていますが、これを一部を入れ替えるとともに再編成。「導入」から「ふりかえり」まで一貫した流れを作りました。特に「クイズ」の内容を大幅に改訂。楽しみながら、このワークに必要な知識を順序だてて学べるようにしました。メインのワーク「ミニお芝居(旧・ロールプレイ)」の台本も、最新の状況を反映させ、登場人物も整理して大幅にリニューアル。「資料編」は、マジカルバナナを実施するために必要な情報に焦点を当てて、より深く、より詳しく掘り下げる「解説編」としました。また、バナナの流通の鍵を握る「ムロ(追熟するための倉庫)」を新たに取材し、ワークショップに生かすとともに資料写真にも加えました。

このマジカルバナナv3を多くの方に知っていただき、学校の先生をはじめ地域活動の担い手の方々に買っていただくとともに、地球の木でもこのワークショップの担い手を増やしていくことが大事になっていきます。ぜひ、みなさまのご協力をお願いします。

(マジカルバナナチーム 斎藤 聖)

(注1)民衆交易

生産者の搾取を生む価格競争をせず、生産者が適切な利益を得られるとともに、消費者が安全・安心なものを得られるような取引の仕組み。「援助」するのではなく、「もの」の生産・流通・消費を通じて、作る人と食べる人が直接出会い、ともに支えあう関係性を築きながら連帯し、「オルタナティブな(現状とは違う)社会」の実現を目指す。

(注2)開発教育

私たち一人ひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、ともに生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらった教育活動。



地球の木出前講座は未来への種まき

自分たちのくらしを見直す

地球の木はアジアの困難な状況にある人々への支援・協力をおこなっていますが、実は個々の問題の多くが私たちのくらし方と切り離して考えることはできないと認識しています。そのため設立当初から支援だけではなく、「自分たちのくらしを見直す」ことを活動のテーマとし、地球市民教育活動として社会にむけて発信してきました。

そうした活動のひとつとして、支援地の報告会、現地スタディツアー、地球の木講座に加え、学校や地域の市民団体からの依頼を受けて出前講座を行っています。

問題をわかりやすく伝える

たとえば2009年度には10回ほど、主に中学校、高校などで、開発教育定番の「貿易ゲーム」に加え、地球の木オリジナルのワークショップ「マジカルバナナ」や「ネパール・タルー族の家族ゲーム」「ラオスの森・村のくらし」を行いました。中には毎年継続実施している学校もあります。それぞれのワークショップの中で、地球規模の問題の背景にある地域間の格差や不公正、環境破壊などの構造的な問題をできるだけわかりやすく伝えていくことに努めています。また、特にまだ頭の柔らかい中高生たちに、現在の日本とはまったくちがう支援地の文化やくらしを持つ人々について知り、あらたな視点から自分たちの既成の価値観を問い直す機会としてもらいたいと考えています。

未来への種まき

たった一度の2時間足らずのワークショップなので、「日本に生まれてよかった」という感想に終わることもありますが「もっと知りたい」「もっとこうしたいと思った」といった感想もあり、生徒さんたちの次のステップへとつながっていく手ごたえを感じることも多々あります。そういった意味で、私たちはこの出前講座で特に若い人たちにに向けた「未来への種まき」を行っているのだと考えています。

総合学習の時間が少なくなって学校からの依頼自体は減少傾向にありますが、その分依頼してくださる学校には、開発教育に関心をお持ちの先生方の強い熱意と期待を感じます。それに応えるためにも地球の木出前講座チームは一層の努力を重ねていきたいと思っています。



多彩な出前講座プログラム(ワークショップ)

- マジカルバナナV3**
身近なバナナを題材にクイズ、ミニお芝居などを通して生産者の暮らしと私たちの繋がりを考えます。
- ネパール・タルー族家族ゲーム**
ネパールの村の家族になり、字の読めない体験を通して「学ぶ」ことについて話し合います。
- ネパールわくわくバッグ**
ネパールの生活用品を見て触ってネパールの暮らしについて学びます。
- ラオスの森・村のくらし**
ラオスの村びとは、森に大きく依存して暮らしています。生活用品や食生活を知ることから森を守ることを意味を考えます。
- 貿易ゲーム**
紙とはさみや定規を使ってゲームをしながら、世界の貿易の仕組みを疑似体験します。
- もし世界が100人の村だったら**
世界の63億の人口を100人の村に見立て世界の現実を心と頭で体感します。
- 「援助」する前に考えよう**
「途上国」への援助は様々な形があります。でも「なぜ」その援助が必要なのか? 国際協力のあり方と私たちの関わりを考えるワークです。

特に、この夏再登場の「マジカルバナナv3」を持ってどこにでも何う用意があります。学校で、またバランゴンバナナを扱っている生協関係の団体で、「マジカルバナナv3」の出前講座のご依頼をお待ちしています。

また、地球の木の活動は、市民一人ひとりの力を持ち寄っての活動です。会員の皆様の中でこうした活動に関心のある方は、ぜひご参加ください。

(出前講座チーム 中野真理子)

マジカルバナナ本体 2,000円
資料写真CD-ROM 4枚一組 1,200円
追加用カードセット 200円

お申込み・問合せは地球の木事務局まで

from Laos

現地だより

米不足をいかに解消させるか

地球の木会員の皆様、こんにちは。日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所の平野です。ご支援いただいているラオス・サワナケート県における森林保全と持続的農業の活動について、今回は米に焦点を当ててお伝えします。

ラオス人にとって最も大切な食物、米。日本人にとっても大事ですが、朝はトースト、昼はパスタ、夜は酒を飲んで米は食べず、時にそんな日もある人は、「お箸の国の人」の称号をラオス人に譲るべきでしょう（まあ、ラオスではおもに手ですが）。特に農村では3食米が原則であり米が不足している状態では、家畜の飼育や家庭菜園がうまくいっても、それらで得る収入は米の購入に充てられます。だからこそ家畜飼育や家庭菜園が大事とも言えますが、やはり米不足そのものの解消は重要です。JVCラオスでは、生産量の増大と相互扶助によるリスク低減という両面からこの問題に取り組んでいます。

*

生産量増大のための活動：ボカシ肥研修

堆肥には、土壌の質を改善させるにより有効なタイプと、作物の成長を促進するのにより有効なタイプとがあります。今回5月から6月にかけては、田植えを目前にしているため、作物の成長を促進する「ボカシ肥」の作り方の研修を行いました。これは、地球の木の皆様にもご支援いただいて日本のアジア学院に留学したフンパンが、同学院で学んできた技術です。村の人々も、以前から牛糞の直接投入はしてきていますが、牛糞の肥料としての効果を高める新しい技術に関心を示していました。

相互扶助によるリスク低減：米銀行

米不足の際の問題の解決策として、買うこと、あるいは借りることが挙げられます。しかし米を買うには長い時間をかけて林産物を採集して売するなどしなければいけませんし、借米する場合ではしばしば50%、倍返しといった高利であったりするため、収穫してもまず米を返し、いずれまた米不足に、といった悪循環に陥りがちです。こうした状況に対し、村の中に低利で米を借りられる仕組みが米銀行です。現在までに5村で米銀行委員会が設置され、規則が決められ、米倉が建設され、米の貸し出しが開始されました。将来的に利子の米を売って学校を補修するなどの活動も可能ですが、それには米銀行がきちんと運営されることが条件。このため、長年米銀行を成功させている村の村人を呼び、対象村の村人を鼓舞してもらうこともしました。

(JVCラオス現地代表 平野 将人)

* 有機肥料を微生物によって発酵させ原形から「ぼかす」ところから、そう呼ばれている。具体的には牛糞などの家畜糞に炭化させた米の籾殻などを加え、水を入れ攪拌発酵させる。



高床式の米倉の前で

from Nepal

マンガルトール村 しあわせ村民キャンペーン 日本にしながらマンガルトール村民に!

ネパールで行っている「幸せ分かち合いムーブメント」に、もっと多くの方に参加していただきたい。そんな思いで9月から「しあわせ村民キャンペーン」を始めます。

この現代に、私たちが得たものと失ったものは、同じ重さを持っているようです。ネパールマンガルトール村でおこなっている「幸せ分かち合いムーブメント」は、環境、伝統文化、人間関係などをこわしてしまうような「発展」ではなく、幸せを分かち合う「発展」をめざしています。支援する側と支援される側が互いに協力し合い、学び合いながら、進めている活動です。

地球の木では、この村の唯一の高校を通じて奨学金や図書室、教師トレーニングなどをサポートしています。山あいの村には日本にごく普通にある「便利さ」はありません。交通、電気、水、医療、教育、産業など「えっ？ たったこれだけ？」と驚かれるかもしれません。

地球の木は、村の暮らしをより良く知り、学び合うために年1回のスタディツアーを行っています。この成果は大きく、村との信頼関係が増し、双方に良い効果が出ています。しかし、この体験を会員に伝えこそすれ、実際に体験できるのはほんの少しです。

そこで、もっと大勢の日本の人たちが村の人たちと幸せを分かち合えたらいいなと考案されたのが、「しあわせ村民キャンペーン」です。マンガルトールの村民になるには、1,000円の村民賛同金を支払い、村民として、環境にやさしい生活をし、よい人間関係をつくる努力をすることを約束します。村人へメッセージも届けます。村民賛同金は、村の教育プログラムに充てられます。SAGUN-マンガルトール協力委員会の承認を受け、村民になると現地から手描きの絵入り村民証が送られてきます。地球の木からは、村の生活を紹介する村だよりをお送りします。

「幸せ」とは、誰もが自分を大切に生き、深いところで他人と共感でき、調和することではないでしょうか。なぜなら、人は皆、他人とのつながりを求め、調和を求めているはずだからです。どうぞみなさんも、しあわせ村民キャンペーンにご参加ください。

(ネパールチーム 岸 夏代)



村民の約束

- ・いつも笑顔
- ・エコな暮らしを心がける
- ・自分も相手も大切に

from Cambodia

タケオ職業訓練センター訪問 (7/7~7/11)

織る楽しさを大切に

5カ月ぶりのセンターには、新しい訓練生が数人増えていました。前回伝えてあった日程より3カ月早い訪問ということで、注文してあった自然染色の紺のシルクショールはまだ出来ていませんでしたが、カンボジア伝統のクロマー風のモダンなシルクショールはたくさんできていました。よこ糸に使っている紺糸が面白い効果を出しているもの、よこ糸の素材を変えて変化を出しているもの、など新しいデザインも目にはいりました。「デザインは誰が考えているの？」と訓練生に聞いてみると、「自分で考えています。先生と相談しながら」とのこと。

カンボジアで売っているショールは大まかに言って二種類です。お土産用の画一的なデザインショールか、あるいは海外NGOが関わっているショップで売っている欧米系のデザイナーがデザインしたおしゃれなよくてきたショール。

でもこのセンターのモダンショールはそのどちらでもない。織り進めながら「このボーダーには何色を入れよう？」などと訓練生たちが一生懸命考えたに違いない、一枚一枚違う個性的なショールです。ショールームの真ん中に立つと、一人ひとりの「織る楽しさ・デザインを考える楽しさ」が伝わってきます。

ただ、今回センターに行き気になったことは、どうやら糸が足りない状況だということ。空いている織機も目につきました。

カンボジアの地方の人たちが注文を受けて機を織る場合、たいていは仲買人が糸を預け、織り上げてから工賃を払うそうです。シルクの糸は2キロで約80ドル。カンボジアでは大金です。プノンペンの縫製工場でも月給は60ドル程度。私たちが糸を先に預けないで注文したのはかなり負担だったようです。2日目に市場で糸を買って持って行きました。

現在、生活クラブ神奈川の共同購入でカンボジアシルクグッズを取り扱ってもらうことを目指しています。今回、生産体制や品質管理について、より具体的な調査・打ち合わせをしてきました。来年の春には皆さんに素敵なショールをお届けできるように、課題を一つひとつクリアしながら、訓練生や織物の先生と一緒に取り組んでいきたいと思っています。(クメールシルクチーム 大藪 明恵)



アドバイスをする筆者

チャパティ・カレーで参加

港南台国際協力まつり (7/24~25)

大学生ボランティアの若い力も頼もしい港南台国際協力まつりも4回目となりました。浴衣を着た子どもの姿を見かけたりすると、地域に根ざしてきていることを感じます。また、日本に11年住んでいるというネパール人が、チャパティ（ネパールではロティと呼ばれる）を美味しいと仰って下さったことはとても励みになることでした。

このようなまつりに参加することは、支援のための資金を得るの他に、支援地の食文化の一端でも味わってもらう事で彼の地を身近に感じてもらうという意義があると思います。

私たちが販売した冷たいチャイ（ミルクティ）は現地ではあり得ませんし、ドライカレーはエスニックですらありませんが、少なくともチャパティは、ネパール人のお墨付きをいただきました。

次からは、「お米のできない地域はチャパティを食べます」とネパールの食文化の解説つきで売ることが出来ます。
(なんぶランチ 栗原 照生)



チャパティの作り方

全粒粉に水と塩少々を加え、よくこねて丸めます。
麺棒などで薄くのばし、油をひかずにフライパンで焼く。



すてきな仲間……山本正俊さん(相模ランチ)

地球の木の会員になって、まだ1年半ですが、山本さんの活躍には目覚ましいものがあります。定年退職後、何か国際協力に関わりたい、とインターンシップに応募したのがきっかけで、地球の木を紹介され、入会しました。

5年前から自宅近くの里山で仲間たちと一緒に野菜と米作りを行っている山本さんは、いつも「自分は何をしたら地球の木に貢献できるか？」と考えてくれるポジティブな会員です。初めに参加したのはソーラークラブ。地球の木の仲間たちが作った手作りソーラーパネルをネパールに持っていくという企画があり、その準備に関わってくれました。山本さんは温かい人柄ゆえ、いろいろなチームから声を掛けられましたが、ラオスの森に興味を持ち、今年2月の調査に同行、農業や自然に関する豊かな知識を活用して、ラオスの森の植生について調査し、「ラオス調査報告会」で発表してくれました。

地球の木で活動する仲間たちの中には、国際協力を通じて世界の仕組みを知り、自分たちの暮らしから変えていかなければ、と考え、行動する人が多くいます。最近、

野菜作りをする人が増えてきました。山本さんは、そんな地球の木の仲間たちを相模原に招いて田畑を案内してくれました。カエルの鳴き声のどかに聞こえる田んぼ、湧き出す清水、柔らかなさやえんどう……。今年初めて植えつけた小麦は青々と天に向かって穂を伸ばしていました。

先日、収穫した小麦を磨いて作った小麦粉が、地球の木の事務所に届きました。ソーラークラブ・メンバーの米林大作さんがその小麦粉でソーラーケーキを作り、「地球の木カフェ」で売って大好評！太陽エネルギーに興味を持った山本さんは、仲間と一緒にソーラーパネル作りのワークショップに参加し、自分たちの作業小屋にソーラーで電気を点すと張り切っています。畑見学ですます農業に魅せられた会員たちのアンコールに答え、秋には一泊二日のグリーンツアーを企画しようという話に発展しました。一人の積極的な参加が、地球の木に楽しい変化をもたらしています。



ラオスの森で…

(ソーラークラブ 乳井京子)



左端が山本さん

ちょっと言わせて！



市民運動とは？

菅直人首相は、就任時の所信表明演説で、自分の政治理念の原点は政治学者・松下圭一氏の「市民自治の思想」であると述べた。松下氏の講演は一度聞いたことがあるだけだが、「市民参加」という言葉をつくり、政治思想だけでなく市民運動に大きな影響を与え続けている松下氏の存在の大きさを私も少しは知っていた。菅演説に少なからず感動し、市民運動のあり方というものをあらためて考えてみた。今、地元・横浜市栄区の大規模開発反対運動に参加しているからだ。

開発計画そのものは、一昨年、市の都市計画審議会が認めなかったために頓挫した。市民の反対運動はその時点では勝利した。しかし、事業者はその後も開発の意思を表明していることから、私たちの反対運動は続いている。だが、定例会に参加していた人たちは1人、2人と減っていった。運動の方向性をめぐって大激論があり、憤然と退出して行った人もいた。運動の停滞期にはよくあることだと私も承知してはいたが、意見がぶつかるたびに残念に思ったことは、リーダーたちの説明が足りないことと、議論がいつも未消化に終わってしまうことだった。

市民運動を支えているものは、参加している人たちの強い意思と自発性だけだ。自分に関わりがないところでもものが決まり、十分な説明がなければ持続する志は萎える、そのことをいつも心に留めてほしいと、私は言葉を選びながら、リーダーたちに何度もメールを書いた。時にはおおぜいの会員をCCに引き連れて。

活動日誌 (6月~8月抜粋)

- 6月 9日 地球の木サロン「実践英会話」
- 19日 鎌倉女学院国際セミナーにて
ワークショップ「タルー族の家族ゲーム」
第1回 国際協力First Stepフォーラムにて
ワークショップ「援助する前に考えよう」
- 21日 第1回ランチ連絡会
- 23日 第1回理事会
- 24~30日 カンボジア・ラオスの織物展参加(相模原スペースWEWE)
- 25日 地球の木サロン「エッセイ修行」
- 26日 ネパールスタディツアー報告会(藤沢)
地球の木サロン「ハングルに親しむ」
- 7月
- 7~14日 カンボジアアタケオ現地訪問
- 11日 第3回 国際協力First Stepフォーラムにて
スタディツアー紹介
- 20日 プログラム連絡会

リーダーたちの多くはリタイア後の男性だが、人生経験豊富であるはずの彼らが、議論が意外と苦手なのは、と思うことがしばしばある。批判を「全人格が否定された」と思ったのか、顔を真っ赤にして怒る人もいる。「代表」という立場を勘違いしているのではないと思われるような行動をとる人もいた。それでも、運動をここでやめてしまっは、と思ひ直し、街宣行動には欠かさず参加しているのだが。

市民運動出身の政治家であり、「ていねいな議論を」と呼びかける菅氏が、説明責任が足りない、党内議論が不十分だと、今、批判されている。菅氏も「勘違い」してしまった1人なのだろうか。政権交代に歓喜した1年前、民主党が参院選でかくも無様な姿で惨敗すると、私は思ってもみなかった。菅氏だってそんなことは思ってもいなかったはずだ。
(なんぶランチ 真矢 公子)

読書の秋に…

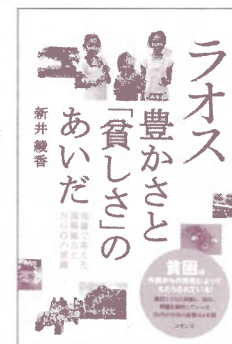
ラオス 豊かさ「貧しさ」のあいだ
現場で考えた国際協力とNGOの意義

出版社:コモンズ 発行:2010年6月 価格:1,785円

2005年からJVCラオス駐在員として会報に現地便りを寄せてくださった新井綾香さんがラオスでの4年間を本にしました。20代後半という若さで“農村開発”という地味な現場にはいり、ラオスの村人と真摯に向き合い、悩み、問題を一つひとつ解決していった新井さんのパワーと勇気に脱帽!!

NGOの現場で彼女が見てきた、本来豊かさを目指すはずの「開発」や「援助」が村人を新たな貧困に追いやるという現実。NGOとして何をすべきか、何をすべきでないか、私たち「地球の木」にとっても示唆に富んだ、貴重な体験の詰まった書である。

(ラオスチーム 中野真理子)



- 21日 地球の木カフェ 地球の木サロン「Tea & Talk」
- 24~25日 港南台国際協力まつり(なんぶランチ)
- 27日 第2回ランチ連絡会
- 29日 地球の木サロン「エッセイ修行」
- 30日 第2回理事会
- 8月
- 7~8日 第28回開発教育全国研究会(JICA地球ひろば)
ワークショップ「マジカルバナナv3」
- 11日 地球の木サロン「実践英会話」
- 18日 地球の木サロン「Tea & Talk」
- 18~19日 地球市民学習のための教材総合展(あーすプラザ)
「マジカルバナナv3」紹介
- 21日 ハロハロを食べてアジアを知ろう(川崎北ランチ)
- 28日~9/5 横浜下町パラダイスマつり*よこはま若葉町多文化映画祭に参加
- 29日~9/5 ネパール現地調査

地球の木カレンダー2011『アジアの瞳』



子どもたちの瞳がキラッ！キラッ！キラッ！

三井昌志さんが撮った元気なアジアです

中綴じ壁掛型、書き込みしやすい、月の満ち欠けを表示。

価格：1,500円

サイズ：280mm×385mm（使用時：560mm×385mm）

印刷：環境保護印刷・オールカラー

写真：三井昌志

◆国際協力カレンダーの収益は、アジア・アフリカでの国際協力活動に使われます

あーすフェスタかながわ2010

みんなで育てる多文化共生

世界の料理、屋台、民族音楽、体験型ワークショップ、バザール、展示、フォーラムなど家族や友だちみんなで楽しく多文化共生について考えるイベントです。地球の木は、支援地のグッズの販売と「チヂミ」の屋台、「かながわと世界のともだち」展で参加します。是非お立ち寄りください。

日時：9月11日(土) 12日(日) 10:30~16:00

場所：あーすぷらざ・リリース

JR根岸線「本郷台」駅改札を出て左手

グローバルフェスタJAPAN 2010

MDGs、それは「私たちの約束」

2015年までに世界の貧困を半減する

「10月6日は国際協力の日」を記念して開催される国内最大の国際協力のイベントです。今年で20周年を迎えます。地球の木は、支援地のグッズの販売と韓国の子ヂミの販売をします。ワークショップも行います。

日時：10月2日(土)・3日(日) 10:00~17:00

場所：日比谷公園

東京メトロ丸の内線・千代田線 「霞ヶ関駅」

下車徒歩2分

都営地下鉄「内幸町駅」 下車徒歩2分

東京メトロ日比谷線「日比谷」 下車徒歩2分

JR・東京メトロ「有楽町駅」 下車徒歩6分

よこはま国際フェスタ2010

国際協力や在住外国人支援団体の活動紹介やフェアトレード品の販売、フードコーナーがあります。今年は横浜開港の地・象の鼻パークで開催されます。地球の木は支援地のグッズを販売します。

日時：10月16日(土)・17日(日) 10:30~17:00

場所：象の鼻パーク・波止場会館

みなとみらい線「日本大通り駅」より徒歩5分

JR・横浜市営地下鉄関内駅から徒歩15分

ネパール・デイ フェアトレードを超えて

ネパールに関する文化やフェアトレード、国際協力活動を紹介する展示やセミナーで豊かな社会を共に考えます。地球の木は、幸せ分かち合いムーブメントの写真展示と紹介、ミニワークショップを行います。

日時：10月24日(日) 10:00~17:00

場所：あーすプラザ 1F ワークショップルーム、
5F 映像ホールほか

かまくら国際交流フェスティバル2010

鎌倉市内で国際交流・協力活動を行っている市民団体が協力して平成7年から実施しています。

地球の木は支援地のグッズ販売とコーヒーの販売をします。

日時：10月31日(日) 10:00~15:00

場所：高德院(鎌倉大仏)

江ノ島電鉄「長谷駅」下車徒歩7分

または、鎌倉駅東口バス乗り場(1番・6番)

からバスに乗り「大仏前」下車すぐ。

地球の木 ネパール・スタディーツアー2011

…幸せの原点をたずねる旅…

日時：2011年2月11日~19日

訪問地：ネパール カトマンズ、カブレ郡マンガルター
ル村ほか

参加費：22万円(航空券、諸税、ビザ、宿泊、食事、
現地交通費、プログラム費を含む)
燃油サーチャージは含まれません。

会員でない方は初年度会費が必要となります。

対象：テーマに関心のある健康な人

説明会：11月28日(日)、12月11日(土)

10:30~12:00 地球の木事務所

募集締切：2011年1月11日

旅行企画・実施：風の旅行社

現地プログラム企画：地球の木

申込・問合せ：地球の木 詳しくは資料をご請求ください。

★ボランティア募集!

発送作業、イベント手伝いなど